

教職支援室便り (5月号)

令和4年 5月 13日 (金)

文責：教職支援室 曾我文敏

☎0985-20-4808

教員採用選考試験まで あと2か月

教職特別講座への取組強化！

教員採用選考試験(第一次試験)まで、あと2か月あまりとなりました。九州各州市の試験が、7月9日(土)、10日(日)に行われるなど、多くは7月上旬から中旬にかけて実施されます。いよいよ迫ってきた試験に向けて、本学の学生の皆さんは、意欲的に特別講座に取り組んでいます。

本年2月号では、3月末までの特別講座の内容を掲載しましたが、今回は、4月から7月末までの内容を掲載します。今後は、特に全体支援と個別支援を行いながら、教職教養、専門教養等の筆記試験対策に力を置きます。学生の皆さんには、どの分野が自己の課題であるかを明確にして、特別講座に取り組むことが求められます。

日曜	時限	演習内容
4月 8日(金)	2	4月以降の特別講座打合せ 著作権法 学校図書館法
4月12日(火)	3・4	東京アカデミー模擬試験
4月14日(木)	2	講話「採用試験で問われる教員としての資質1」 地方教育行政の組織及び運営に関する法律
4月19日(火)	2	地方教育行政の組織及び運営に関する法律
4月21日(木)	2	キャリア教育
4月26日(火)	2	前半「キャリア教育の在り方」討論 後半 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律 人権教育・啓発に関する基本計画
4月28日(木)	2	人権教育及び人権啓発の推進に関する法律 人権教育・啓発に関する基本計画
5月 2日(月)	2	人権教育の指導方法等の在り方(第三次とりまとめ)
5月10日(火)	2	講話「採用試験で問われる教員としての資質2」
5月12日(木)	2	特別支援教育
5月17日(火)	2	インクルーシブ教育
5月19日(木)	2	チームとしての学校 性同一性障害
5月24日(火)		教育実習 個別支援 自主学习
5月26日(木)		教育実習 個別支援 自主学习
5月31日(火)		教育実習 個別支援 自主学习
6月 2日(木)		教育実習 個別支援 自主学习
6月 7日(火)		教育実習 個別支援 自主学习
6月 9日(木)		教育実習 個別支援 自主学习

6月14日(火)	2	生徒指導提要
6月16日(木)	2	生徒指導提要 第3次教育振興基本計画
6月21日(火)	2	教育心理 教育史 令和の日本型学校教育
6月23日(木)	2	教職教養確認問題 専門教養練習問題 個別支援
6月28日(火)	2	教職教養確認問題 専門教養練習問題 個別支援
6月30日(木)	2	教職教養確認問題 専門教養練習問題 個別支援
7月5日(火)	2	教職教養確認問題 専門教養練習問題 個別支援
7月7日(木)	2	教職教養確認問題 専門教養練習問題 個別支援
7月12日(火)	2	講話「面接力を考える」&演習
7月14日(木)	2	講話「模擬授業力を考える」&演習
7月18日(月)～ 夏季特別講座 別途計画		

卒業生からの便り

令和3年3月に卒業して教職に就いた皆さんは、すでに教職1年目が終わりました。新規採用されて1年間は、学級担任(副担任)をしながら、初任者研修に取り組みます。また、学校の1年を見通せない中で、業務を遂行しなければなりません。本当に大変な1年だったことでしょう。しかし、様々な問題・課題に直面する中で、教職に就いた喜びを感じることも、多くあります。

この教職支援室便りでは、適時「卒業生からの便り」を掲載していますが、今回は、3月末に届いた卒業生からの便りを紹介します。

こんにちは。お元気ですか？

一昨年は、宮崎公立大学で大変お世話になりました。

本日は、無事に1年間終えたことをご報告させて頂きたくご連絡いたしました。先程新規採用教職員の閉校式が行われ、来年度より正規採用となります。

今年度の1年間を振り返ってみると、本当にあっという間でした。怒涛のように過ぎ去りましたが、心優しく温かい子どもたちと過ごすことができ、幸せだなと思いました。4月に始まった学級は、時に思い悩む日もありましたが、大きなトラブルもなく平穩に終えることができました。曾我先生が仰っていた「やりがいのある仕事」という言葉を、ひしひしと感じさせられました。まだまだ未熟者で課題も多くある教師ですが、子どもたちと過ごす中で、子どもたちから助けられたり救われたりする場面も多く、最初にもった学級が2年1組で良かったと心から思いました。来年度は、まだどの学級を担当するか分かりませんが、この1年間終えられたことに自信をもって来年度の子どもたちとも、しっかり向き合っていきたいと思います。この1年間、笑って過ごすことが多かったのも、学級の子供たちや周りの先生方、保護者様に支えられたお陰だと思っています。自分の信念を持って、教師としてこれからも突き進みたいと思います。

この便りの中に、『やりがいのある仕事』という言葉、ひしひしと感じさせられました。まだまだ未熟者で課題も多くある教師ですが、子どもたちと過ごす中で子どもたちから助けられたり救われたりする場面も多く、最初にもった学級が2年1組で良かったと心から思いました。」とあります。私は、この文の中に、特に教員としての資質・能力を強く感じます。卒業生からの便りも、私にとってかけがえのないものです。

388の面接試問例の分析（整理）：その3

本年3月号から、これまで特別講座（旧：勉強会）で活用した、388の面接試問例の分析（整理）資料を掲載しています。今回は、先月号の「1受験自治体に関すること、2生徒指導に関すること、3保護者対応に関すること、4これまでの経験に関すること」の続編として、「5教員としての資質・能力に関すること、6人柄・性格等に関すること、7コミュニケーション力に関すること」について、388の試問例の中から、各10問を掲載します。

5 教員としての資質・能力に関すること

- 1 これからの社会において、教員には、どのような力が求められると思いますか。
- 2 教員志望の理由を述べてください。
- 3 教員に適している性格とは、どのような性格だと思いますか。
- 4 「教育とは」と問われたとき、何と答えますか。
- 5 「教育的愛情とは」と問われたとき、何と答えますか。
- 6 本県にとって、あなたを採用したらどんなメリットがありますか。
- 7 「教育の原点」とは、何だと思いますか。
- 8 あなたは、自分の弱さを子どもたちに話すことができますか。
- 9 教員として、自分に足りないと思うことは何ですか。
- 10 小学校（中学校・高等学校）教員としての、あなたの強みは何ですか。

6 人柄・性格等に関すること

- 1 あなたは、集団の中でどのような位置にいますか。
- 2 あなたの長所を教えてください。
- 3 あなたの短所を教えてください。
- 4 あなたは、ストレスに対して強い方だと思いますか。
- 5 あなたのストレス解消法を教えてください。
- 6 自分を一言で表現すると、何と表現しますか。
- 7 あなたが尊敬している人を、1人あげてください。
- 8 あなたは、周りの人からどのように見られていますか。
- 9 他の人とすぐに打ちとけられる方ですか。
- 10 人間関係を築くうえで、大切にしていることは何ですか。

7 コミュニケーション力に関すること

- 1 「コミュニケーション力とは」と問われたら、何と答えますか。
- 2 コミュニケーション力は、なぜ大事だと思いますか。
- 3 児童生徒と接するときに、気を付けていることは何ですか。
- 4 組織の一員として行動するときに、大切にしていることは何ですか。
- 5 年上の人と接するときに、気を付けていることは何ですか。
- 6 年下の人と接するときに、気を付けていることは何ですか。
- 7 学年の方針と自分の考えが合わないときは、どのように対応しますか。
- 8 苦手な同僚がいたら、どうしますか。
- 9 教員間の連携で、何が必要だと思いますか。2つあげてください。
- 10 教員間で意見が対立したら、どのように対応しますか。

道徳の教科化に思う！（シリーズ60）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について連載しています。今回は、「豊かな心を育む教育活動の創造～道徳教育（道徳科）と福祉教育（福祉体験活動）の関連を図る中で」をテーマに、その1として「道徳教育と福祉教育の関連」等についてまとめました。

なお、今回は、その2として「道徳科（道徳授業）と福祉体験活動の関連を図った指導」について掲載する予定です。

豊かな心を育む教育活動の創造

～道徳教育（道徳科）と福祉教育（福祉体験活動）の関連を図る中で～

◇1 道徳教育と福祉教育

○ 道徳教育のねらい

学校、家庭、地域において、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいた豊かな心を育み、他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。

○ 福祉教育のねらい

学校、家庭、地域において、生命の尊厳や人間の生き方について学び、一人一人の立場や考えた方を尊重する豊かな心を育み、共によりよく生きる力を培う。

- ◇ 道徳教育、福祉教育のねらいは、豊かな心（人間尊重の精神）を育むことである。
- ◇ 道徳教育においては道徳授業を中核として豊かな心を育て、福祉教育においては体験活動等を中核として豊かな心を育てる。
- ◇ 両者の関連を図ることにより、充実した教育活動を展開し、「共感できる思いやりの心」を育むことは重要である。
- ◇ 共感するとは
 - ・自分との関わりの中で、他者の心情を共有すること。
 - ・他者を、自分と関わりが深い者として捉えること。
 - ・自分と他者を、一体化して感じること。
 - ・他者に自分を投影して、その判断や心情を考えること。

◇2 道徳の教科化

- ◇ 全国的に、道徳教育に関する実践研究が低調である。
 - ◇ 児童生徒が読み物教材の登場人物と共感した授業が、数多く行われてきた一方で、形式的な授業（心情理解のみに偏った形式的な指導や教え込む指導）なども行われてきた。
 - ◇ いじめ問題などの対応について、道徳授業等の実効性が問われてきた。
 - ◇ 道徳授業の原点に立ち戻ることが求められる。
- <道徳授業の原点>
- ① 答えに間違いがない時間
 - 他教科とは違う時間です。
 - 答えを強いる時間ではありません。
 - 友達と同じ意見であっても、発表してほしい時間です。

- ② 教師と子どもたちが共に学ぶ時間
 - 教師も一人の学習者として学びたい時間です。
 - 教師の生き方を押し付ける時間ではありません。
- ③ これまでの自分の価値観を見つめ、より高い価値観に気付く時間
 - 答えを強いる時間ではありません。
 - あくまでも気付かせる時間です。
- ④ 教材中の主人公に共感する時間
 - 単に気持ちや考えを発表させる時間ではありません。
 - 真に主人公に共感させることが重要です。
 - 子どもたちに考えさせることが重要です。
- ⑤ 豊かな心を学ぶ時間・人を大切にする心を学ぶ時間
 - 人間尊重の精神を学ぶ時間です。
 - 人の存在の尊さを感じ取る時間です。
- ⑥ 人の生き方（人の強さ・弱さ）を学ぶ時間
 - 強さだけを学ぶものではありません。
 - 弱さを学ぶ時間でもあります。
 - 弱さを理解した上で強さを学ぶ時間です。
- ⑦ 学校と家庭・地域が連携する時間
 - 子どもたちの豊かな心を、共に育てていく認識が重要です。
 - 道徳科の時間においても、両者の連携を図ることができます。
 - 家庭・地域においても、子どもたちの道徳的実践の姿が見られます。